



# 根 筮

2011  
(平成23年)  
10月1日

発行 ● 新島学園同窓会 松本長光  
住所 ● 〒379-0116  
群馬県安中市安中 3702  
TEL ● 027-382-4073  
FAX ● 027-382-4093

## ごあいさつ



会 長  
松本長光

同窓生の皆様方におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また日頃、同窓会活動に対して暖かいご支援、ご協力を頂き、心から感謝申し上げます。

さて母校 新島学園は2012年に開学65周年を迎えようとしています。学園のためにご尽力を頂いた湯浅家の皆様方をはじめ数々の功労者の方々に對して心から敬意を表し感謝申し上げる次第です。

一方、今 私たちを取り巻く社会、経済は人口の減少、超高齢化社会の本格的到来そしてグローバル化の影響、さらに東日本大震災、原発人災と、とどまることを知らないダメージを受け、本当に厳しい時代を迎えています。

まさに本学園の建学の基、新島襄の精神と生き方に学び、困難な時代を切り開く使命が私たち新島

学園同窓会に与えられた様な気がしてなりません。同窓会本部役員会では本年初頭、3つの指針を心掛けてスタート致しました。

- 一つ 創意工夫
- 一つ 簡素、節約
- 一つ 積極果敢

そんな中で2011年度同窓会理事、評議員会総会において、同窓会ホームページ開設の検討とともに44号会報、根筮の掲載が提案されました。

これを受け本部役員会にて協議した結果、今年度より同窓会ホームページを開設することを決定いたしました。同窓生のみならず、在校生、保護者の方々、広くは一般の方々、海外在住の方々にも新島学園同窓会及び同窓生をこのホームページを通じて知っていただく窓口となっていければと存じます。ご協力宜しくお願い申し上げます。

結びに同窓会の皆々様の益々のご健勝とご活躍を衷心よりご祈念申し上げ母校新島学園の更なる発展をお祈りいたしましてご挨拶と致します。

## 同窓会報「根筮」タイトル由来

三期生 下城好一郎

1990年初め、ひよんな事で同窓会長を引受けた。当時の同窓会の実態は同好会の域を出なかつたので、既に6,000名を数えていた卒業者がいる以上、まず公的な団体として名実共に通用するものに脱皮させなければならぬ。それで「同窓会だより」(当時の会報の誌名)刷新から始めた。読売新聞元政治記者3期の白石清三君を東京から引つ張り出して編集について私の基本的な考え方を伝えた上で一切任せ、と云うよりこれは向こうが本職だ。

当校の背骨は新島襄先生の精神であることは云うを待たないが、安中の地に養足した最初期、文字通り何もない貧乏学校で誠心誠意我々を教え導いてくれた10名足らずの先生方。そしてその中心であった当時の安中教会牧師、江川栄先生の影響が特に大きかった事に異論あるまい。

伝承したい。先生にその象徴「牧者の席に坐って頂きたい。そこで先生の字が上手下手を超越した雄渾なものだった事とも合せ、新聞名を「根筮」と決め、先生に揮毫のお願いに参上した。

先生は当時96歳、清貧の身を夫人とお2人で信者の好意による古びた10畳程の木造1DKにお住まいだった。長押しケンブリッジ大学(ウエストミンスターカレッジ)修了証と英文の聖書の一節が美術品に仕立てられたリトグラフが掛けられていた。

先生は、お子さんは娘さん3人で、現在、安中市内に5歳年下の奥様と娘さんの3人で住まわれ、近辺に娘さんお2人が嫁がれていて、お孫さんが5人いて、毎日、賑やかに暮らして居られるそうです。

「今後の学園に望むことは？」との問いに、『特に学園に望むことはありませんが、学園の玄関先に設置されている新島先生の「良心の充満せる益良夫のいで来たらん事を」という一節を引き合いに出され、また「寒梅」の詩をも引用されて、自分の考えはこれらに盡くされている」とおっしゃいました。

## 恩師を訪ねて

生涯現役



山縣英明先生  
1951~1995  
国語

あいにくの雨の中、玄関口まで先生に迎えていただきました。旧安中高校の前にご自宅があり現在奥様とお二人でお過ごしになられ、東京に娘さんとお孫さんがおひとりおられるそうです。

退職後はオーストラリアの高校に日本語を教えに行かれ、帰国後、安中市国際交流協会を立ち上げ市内在住の外国人のため様々な活動をしておられます。日本語教室をはじめとして、ハングル、中国語等の語学研修、水墨画や古典文学等の教室を通じて、お互いの理解を深め、助け合う活動を、多岐にわたるボランティアで行っておられ、15年になるそうです。

先生は学園の1期生であり、退職後はオーストラリアの高校に日本語を教えに行かれ、帰国後、安中市国際交流協会を立ち上げ市内在住の外国人のため様々な活動をしておられます。日本語教室をはじめとして、ハングル、中国語等の語学研修、水墨画や古典文学等の教室を通じて、お互いの理解を深め、助け合う活動を、多岐にわたるボランティアで行っておられ、15年になるそうです。

先生は、お子さんは娘さん3人で、現在、安中市内に5歳年下の奥様と娘さんの3人で住まわれ、近辺に娘さんお2人が嫁がれていて、お孫さんが5人いて、毎日、賑やかに暮らして居られるそうです。

いる事もその恩返しのもりなのだと控えめに述べておられました。

少子化で子どもが少なくなっている現状を鑑み、進学等を含めて、学園の前途を心配しておられました。又、様々な部活動の顧問をしていた頃の話等、なつかしように、そして「ひと様のお世話ができるように生きていくことが自分の学園や社会への恩返し」とおっしゃるあたり、昔と変わらぬ澁刺として若々しい生涯現役を感じさせる先生でした。

(桜井恒雄、萩原永史)

学園近くのレストランでインタビュー。

先生は、お子さんは娘さん3人で、現在、安中市内に5歳年下の奥様と娘さんの3人で住まわれ、近辺に娘さんお2人が嫁がれていて、お孫さんが5人いて、毎日、賑やかに暮らして居られるそうです。

教員生活のスタートは、有田屋さんの前の林家に下宿され、そこからしばらくの間、学園に通われたそうです。「当時は駅からは砂利道で、校舎は木造で、一学年は2クラスで、冬は暖房もなく、風が吹くと砂埃が教室に入ってきて、江川先生などは外套を着て授業をされていたのを覚えている」とおっしゃっていました。

学園では英語の教師でしたが、他に教師が少なかった為か他に体育の授業を受け持ったり、部活動では、寮の近くにあった小屋の中で卓球部の活動がおこなわれ、そこで顧問をつとめたり、山岳部を現在市内で医師をされている茂木先生達と共に立ち上げて、当時はまさに生徒も教師も友達みただったと言われました。

学園には43年間勤務され、退職後は、4人の先生(山縣先生、淡路先生、木村先生、里見先生)で、幸せ(別名 シワよせ)会(木村先生亡き後は文殊会)という会合を2ヶ月に1回もたれ、定期的な会って、旧交を温めていらつしやることとす。

「今後の学園に望むことは？」との問いに、『特に学園に望むことはありませんが、学園の玄関先に設置されている新島先生の「良心の充満せる益良夫のいで来たらん事を」という一節を引き合いに出され、また「寒梅」の詩をも引用されて、自分の考えはこれらに盡くされている」とおっしゃいました。

12月で76歳になる今もお元気で、囲碁と卓球を趣味とされ、多くのお仲間がおられるようです。「孫の勉強もさる事ながら、他から家庭教師をたのまれたりして、なかなか引退させてくれない」とこぼしておられました。

印象に残る言葉はどの問いに、シエークスピアの言葉かもしれないが「Life is but a dream.」(人生は夢に過ぎない)と、自

らの人生の不思議さと、反対されながらも田舎の小さな学園を選び、その中で、多くの出会いを経験され、生涯を捧げてこられた運命の不可思議さを、感慨深げに淡々と語られる様子から、笑顔の絶えない、物事にあまりこだわらない事を生活信条のように心掛けて居られる先生に、あらためて尊敬と感謝の思いを深くいたしました。

(桜井恒雄、萩原永史)

教師になって二十八年



浅野浩司先生  
1983～現在  
英語

トレードマークの口髭にお洒落でダンディーな浅野先生、久しぶりだが「変わらず若くてシブい！」あと数年で六十歳を迎えるなんて思えない。そんな先生のもとへ伺ってきた。

自分自身の六年間サッカーの顧問でもあり、高二・高三は担任でもあった。グラウンドと教室では厳しさと緊張感のある中、かつこい男の雰囲気も持ち、明るくシャレの好きな先生で、周りの生徒からも人気があったことは言うまでもない。

言うこと言うことにカッコよさと重みがあり、つい話に聞き入ってしまう。時には真剣に、時には大笑、また生徒を巻き込むことが上手く笑いを誘う。そんな先生の新任時の話を伺った。

先生が学園に新任の教師で来たとき、周りの教員は先生自身の恩師たちの中、浅野先生を対等に接してくれた時の感情が忘れられないという。恩師の懐かしさ、また学園に戻ってきた嬉しさと、これから始まる緊張感との責任の重さを感じた。その思いが今までに繋がるという。そして今まで教師をやった良かったことは、今まで様々な

生徒に出会えて、生徒からも学ばせてもらった。先生自身に兄弟がいなかったため、学園に入ってから人との関わりがこんなにできて、本当に嬉しく思うと照れながら語っていた。

また新島学園で教師をして気づいたことは、この学園が卒業生の皆を支えられているということ。身を以て感じたという。同窓生の協力や先輩方の叱咤激励、卒業してもいたる所で人が繋がっていること、卒業期が離れていてもすぐに親しみが生まれること、これは他校が羨む自慢の校風でしょう！と先生は言う。新島学園に生徒で入学できて、そして学園の教師になれて本当に良かった。そこには感謝しかない、浅野先生は語っていた。私もこの学園と浅野先生に出会えて思春期の自分に絶大な影響力があったことは間違いない事実。そして今の自分自身があると言っても過言ではない。

ここで余談ですが、浅野先生には知る人ぞ知る「伝説の二十日間の日の丸」という逸話がある。先生は学園サッカー現役時代の高校三年と大学一年時に、ユース日本代表（現U-19）候補で召集があり、その時に二十日間、胸には日の丸を付けて背中には新島学園を背負っていたことはご存じだろうか。

趣味も多彩でサッカー・レコード鑑賞・自転車・また近年は体調も崩したとの事ですが、大好きな酒・・・（治つたらまた飲みたいものです。）

先生と話していると話題が尽きない、相変わらず浅野イズムは健在である。これからも大勢の生徒に出会う中、変わらずの浅野イズムで厳しさの中にも温かみのあるお洒落なダンディー浅野先生でずっといてもらいたい。

PS・先生、もう若くないのですからくれぐれも体調には気を付けて下さいね。

(青島真一)

新島八重子夫人と  
安中ご来訪について

二期生 淡路博和

▼過日、平成二十五年NHK大河ドラマに、新島襄先生の奥方である八重子夫人を主人公とする「八重の桜」が決まったとニュースが流れると、俄然安中でも八重子夫人のことが話題になってまいりました。そこへ同窓会「根篭」編集部からの依頼もあり、良い機会でもあるので、改めて八重子夫人のことに安中との関係などを調べてみました。

まずお名前は、八重なのか、八重子なのかということですが、長年江戸期のことを調べている観点から言えば、江戸期や明治初期には一般的には「子」は付けておりません。明治時代になっても、なかなか「子」は付けませんでした。ただ、私たち新島学園に連なる者としては、新島先生の奥方としての彼女です。ここからは八重子夫人と呼ぶことにいたします。



落城後の会津若松城（鶴ヶ城）天守閣

争は薩長を中心とする新政府側の倒幕軍と、幕府に組みする旧幕府軍との戦いでした。会津藩では藩主松平容保が、かつて京都守護職という幕府の要職にあつた関係から、佐幕派の奥羽越前藩同盟の中心となり、そのため同年八月二十日（陰暦）から、板垣退助率いる倒幕軍との間に凄惨な攻防戦が展開されました。

戊辰戦争が峠を越した十一月、新政府は朝敵藩の処分を行い、その対象は二十三藩にも及んだそうです。会津藩二十三万石も没収されましたが、明治二年（一八六九）家名再興が許され、南北半島に斗南藩三万石（青森県むつ市）の領地が与えられ、多くの旧藩士とその家族一万七千人程が移住し、風雪厳しい土地で辛苦の生活を送ることになったのです。

▼明治四年（一八七二）一月、戦死したと思われていた兄覚馬が京都府顧問をしているという知らせを聞いて、母さく・姪みねの三人で京都に移りました。

八重子夫人は兄覚馬から英語を学び、洋装洋装の女性に生まれ変わったと言われています。明治五年（一八七二）兄の紹介で我が国最初の女学校「女紅場」（現京都府立鴨沂高等学校）の舎監兼教師として働き、そこで茶道教師の裏千家十三代目千宗室（円能斎）の母と知り合つて茶道に親しみ、また英語を媒介として聖書の研究を始め、キリスト教に関心を持つようになりました。

▼明治七年（一八七四）に帰国した新島先生が、京都に学校を建てようと京都府顧問の山本覚馬氏に近づき、八重子夫人は新島先生が一時逗留していた旅館「目貫屋」に兄の紹介で聖書の勉強に通い始め、お互いに惹かれるようになったようです。かつて父民治さん宛の手紙の中で、「日本の女性の如くなき女子を妻に迎えたい」と述べていた新島先生ですので、自由闊達にもの言う八重子さんに注目したのでしょう。

こうして八重子夫人は明治九年（一八七六）一月二日、デヴィス邸にて同氏から洗礼を受け、翌日同氏の司式で結婚式を挙げました。京都で最初の洗礼、キリスト教式の結婚式である



兄山本覚馬氏

八重子夫人は兄覚馬から英語を学び、洋装洋装の女性に生まれ変わったと言われています。明治五年（一八七二）兄の紹介で我が国最初の女学校「女紅場」（現京都府立鴨沂高等学校）の舎監兼教師として働き、そこで茶道教師の裏千家十三代目千宗室（円能斎）の母と知り合つて茶道に親しみ、また英語を媒介として聖書の研究を始め、キリスト教に関心を持つようになりました。

▼明治十年（一八七七）に同志社分校女紅場（のちの同志社女学校）が開校すると八重子夫人は礼法を教え、母さくさんは舎監となり、山本家あげて新島先生を支えました。八重子夫人は洋装にブーツを履き、夫と並んで人力車に乗り、花飾りのある帽子を被り、和服に靴を履く：京すずめには「悪妻」「烈婦」として嫌悪の目で見られました。彼女はどこ吹く風と気にもとめなかつたようです。

▼明治二十三年（一八九〇）年一月二十三日、神奈川県大磯の旅館「百足屋」にて、新島先生は四十七歳の生涯を閉じました。結婚生活十四年。同志社大学建設のため全国を行脚しつつ療養する夫の身体を気づかい、夫に付き添って会津・鎌倉・伊香



結婚後間もない頃の新島ご夫妻

保・神戸・北海道等へと出向されました。それは結婚生活の三分の一にも達したとのこと

左は八重子夫人が「夫のみまかりける年の春」に詠んだ歌です。

○大磯の岩にくだる波の音のまくらにひびく夜半ぞかなしき

○ひとりねの寝覚の床は春雨のおとさきさへもさびばかりける

○心あらば立ちなかくしそ春霞み墓の山の松のむらたち

▼新島先生なきあと、明治二十四(一九一一年)には日本赤十字社の正社員となり日赤篤志婦人会に加入。ことに日清・日露戦争の時には、篤志看護婦として広島や大阪で負傷兵の救護活動に従事し、皇族以外の女性としては初めての叙勲を受け、昭和三年(一九二八)昭和天皇即位の大礼に際しては銀杯を授与されました。

また夫の遺産の全てを同志社に寄附され、円能齋直門の弟子として「新島宗竹」の名を授かり、茶道裏千家の普及に努めておりました。私邸でカルタ会を開き、多くの生徒たちから「新島のおばあ様」と親しまれていたとのこと。

▼ところが昭和六年の後半から度々激しい腹痛を訴え、医師の診察を受けておりました。それでも昭和七年(一九三二)元旦の自詠では、

○幸多き年来にけりと諸人にあかつき告ぐるくだけかけの声  
また同年の米寿祝賀の時にも、



明治21年11月撮影の八重子夫人  
と徳富猪一郎・他三名は京都より会津へ向けての旅に発ち、中山道を通って七月十一日夜八時安中に到着、八重子夫人を迎えられて湯浅治郎宅に泊まり、徳富氏

○あしたづのなくをききつつうれしくも  
来てふ文字の年を迎へぬと詠い、幾分小康を見せたこともありましたが、昭和七年(一九三二)六月十三日、茶筵の後に病状激変、六月十四日午後七時四十分、京都寺町の新島邸で急性胆嚢炎のため永眠されました。同月十七日、同志社葬により京都若王寺の新島家墓域に葬られ、八十六歳七か月の天寿を全うされたのです。

同年七月十五日発行の「同志社校友同窓会報」慶弔号に、安中出身の詩人湯浅吉郎氏(号半月)が「新島刀自の永眠を悲しみて」

○五月雨はいかに降るとも小水やみなき  
我涙にはおよばざるらんと、永訣の悲しみを詠っており

▼さて、次に新島八重子夫人の安中ご来訪について記してみます。今後の研究によっては補充訂正されるかも知れませんが、私のささやかな調査では、八重子夫人は安中に四回ご来訪なさ

れております。  
第一回目 明治 十五年七月  
第二回目 明治二十一年八月  
第三回目 明治四十三年一月  
第四回目 大正 十年八月  
▼一回目の安中ご来訪 御年三十六歳

新島襄全集8「年譜編」より、その概略を引用してみますと、  
「明治十五(一八八二)年七月三日、新島先生と徳富猪一郎・湯浅吉郎・他三名は京都より会津へ向けての旅に発ち、中山道を通って七月十一日夜八時安中に到着、八重子夫人を迎えられて湯浅治郎宅に泊まり、徳富氏

らには伝馬町の山田屋旅館に泊まった。八重子夫人は女性二人を伴い神戸より海路、横浜を経て安中に先着していた。新島先生たちは安中・原市・松井田で演説会を開き、その間をみて親戚にあたる植栗家や鷲宮の佐藤種五郎家を訪ねた。(佐藤家には新島先生の姉真規が嫁いでいた)。一行は七月十八日安中を

発ち、太田・栃木・日光・白河を経て七月二十七日会津若松に到着、長旅を経て九月十五日に京都に帰られた」とのことです。

「明治二十一(一八八八)年四月十六日、京都を出発した新島先生は神戸・横浜を経て鎌倉到着。六月八日鎌倉にきた八重子さんと落合い、三日間ほど静養する。東京に戻り、七月二日八重子夫人が秘かに夫の病状を医師に聞くと、「心臓病は全治を期すことは出来ない」とのこと。八重子夫人の心の中いかにばかりであったろうか。それでも新島先生は実に多くの名士と会話し、沢山の手紙を認めています。それは本当に目まぐるしいほどであります。

「静養のため七月二十七日、伊香保の木暮武太夫方に到着、八月六日には千明三郎氏の別荘



明治38年 篤志看護婦会正装の八重子夫人

に移る。京都に戻って来た八重子夫人が八月十六日に伊香保に来る。この間も新島先生は岩崎弥之助氏(岩崎弥太郎の弟)などの名士や地元の名士と会い、勝海舟・陸奥宗光・内村鑑三など諸氏との手紙の通信を行っていました。

「九月十五日、二人は伊香保から前橋へ。九月十六日、八重子夫人は安中へ。そして翌日は新島家の養子新島公義さんの実家(松井田の国衛)へと出向きました。養子公義さんの結婚の件であったようです。

その後の動静は記してありませんが、九月二十五日には新島先生は東京に帰っていますので、八重子夫人も同行したと思われる。当時の新島先生は、組合・一致両教会の合同問題について心労の多い時期でありました。

▼第三回目の安中ご来訪御年六十四歳  
明治四十三年(一九一〇)一月に安中教会で、新島襄先生永眠二十周年記念会が催され、その時の記念写真(←)が新島学園に遺されています。旧安中教会堂の玄関前で撮った写真で、裏に「安中町本多写真館」の印

が押されています。  
写真は向かって右から、山室軍平氏、八重子夫人、ジェローム・デヴィス博士、小崎弘道氏の皆様で、山室氏は日本救世軍の創立者として有名。デヴィス博士は新島先生が同志社結成時の同志のひとり、八重子夫人結婚式の司式者でした。小崎氏は熊本バンド出身で、新島先生亡きあと先生を継いで第二代会社社長となり、のちには東京霊南坂教会牧師として活躍されました。

写真のような穏やかなお姿を拝見しますと、会津時代の勇壮な女丈夫の面影や、洋装のハイカラなイメージとはほど遠く、茶道を楽しむ穏やかな八重子夫人であります。押しも押されおられない凛とした風格が漂っておりますね。

明治とい時代の中でしたが、近代女性の先駆者として、もっと注目されてもいいように思います。NHKのドラマと共に彼女の真骨頂が多くの人の共感を呼ぶのではないかと期待しています。

▼第四回目の安中ご来訪御年七十五歳  
安中教会柏木義円牧師編纂の「上毛教界月報」二百七十四号(大正十年(一九二二)九月十五日発行)の中に、「新島八重子夫人の御来安」の記事があり、次のように記されています。  
「新島先生の奥様は山形より御帰途、(八月)廿八日午前十時廿八分着にて御来安、湯浅家の客となられ、礼拝に御参列、次で別館にて歓迎会を催し、その歓迎会の席上、八重子さんが函館から脱出された時の話をされた。ニコライ師との会見のくだりでは、「あの時にニコライ師が新島に聖書を



明治四十三年一月の記念写真

「脱国を助けてくれたポーター商会の福士宇之吉氏は、夫を沖合に停泊中のベルリン号まで届けるため、三日間も小舟の漕ぎ方を練習していたこと。のちに夫婦して函館に行った時に、新島が指さして「ここは雪駄を脱いだところ」「ここから小舟に乗った」などと話してくれた。またポーターという古い名札の下がった家を見付け、今は零落したその主人に面会し、裏が「私は、貴商会の福士氏のお陰で米国に航海できて・・・」と話すと、その主人は涙を流して「我が社は当時函館第一流の雑貨商であったが、店員の不正によって破産してしまつた。君が温情ある訪問をしてくれ、君の親切がうれし」と喜ばれた。裏は若干のお金を差し上げてお別れした」と八重子夫人は語っています。  
▼新島先生の愛弟子柏木義円牧師と安中教会の皆様を前に、七十五歳の八重子夫人は夫を追憶し、楽しそうに語られたのです。これが安中ご訪問の最後になつたのではないのでしょうか。  
八重子夫人と新島先生・・・お互いに心を通わせ合つた仲睦まじいご夫妻が、函館の浜辺を歩くお姿が目に見えるようです。

(二〇一一・八・三〇記)

註 掲載写真は一部を除き、同志社刊「新島襄その時代と生涯」一九九四年版より転写させていただきました。参考文献は主に、昭和七年(一九三二)二月の「同志社校友同窓会報」第六十一号「新島八重子刀自米寿記念号」と、昭和七年七月の同会報第六十六号「敬弔」号です。なお文中の年齢は満年齢と致しました。

医療法人 信猶会 菊地病院  
院長 菊地 信勝 (9期)  
〒366-0801 埼玉県深谷市上野台371  
☎ 048-571-0660 FAX 048-574-1760

株式会社 研屋  
代表取締役 清水 一希 (51期)  
〒370-0069 高崎市飯塚町805番地  
☎ 027-361-5095 FAX 027-361-5094

株式会社 総合電子計算センター  
代表取締役 松本 長光 (12期)  
〒370-0807 高崎市歌川町72番地  
☎ 027-327-1500 (代) FAX 027-327-0921

# なつかしく思い出される 新島学園で学んだこと

理事長・学長 大平良治

私はこの4月に、学校法人新島学園の理事長に就任いたしました。新島学園は来年、創立満65年を迎えます。今までの3代にわたる理事長は創立した湯浅家から出ておりました。前の理事長の湯浅太郎さんは、長年にわたり理事長の職務を担われ、新島学園の発展期、充実期にご苦労とご尽力をいただきました。心からお礼と感謝を申し上げます。

私は本年度の中学校及び高等学校の入学式に出席しあいさつをいたしました。最近の入学式（特に中学校）には、入学生1人に祖父母と両親が付き添ってくる姿が目につきます。中には新島学園を卒業した祖父母にお目にかかることがあります。わたしが創立間もないとき7期生として入学した頃とは全く違う光景です。

今、私は1952年（昭和27年）4月に新島学園高等学校中学期に入學したときのこと、6年間学んだことがなつかしく思い出されます。

入学式の会場も、今の礼拝堂のような立派な会場ではなく、碓氷川の流氷がすぐ下に見えることができる河岸に建てられた旧製糸工場が使われていた藪の乾燥場の跡を利用して講堂にしたところでした。土間の上に長い椅子を置いた今から考えると質素な会場でした。しかし私が入学した翌年には新しい礼拝堂が完成し、そこで礼拝が行われるようになりました。礼拝堂のうしろには、新島襄先生の大きな肖像画が掲げられ、先生が私たち生徒の賛美歌や祈りを聞き見守っている感じがしました。中学2年生とき、私はクラスで最も身長が低かったために礼拝では最前列に座り、礼拝が終

わると一番最初に、生徒みんなが座っている通路の真ん中を退場しなければならなかったので、恥ずかしくて仕方なかったことを思い出します。私が学んでいた頃の新島学園は極めて徹底した少人数教育でした。私の学年は特に少人数で2クラスで80人ほどでした。そのころ高崎高校や前橋高校は1学年405人の定員でした。そのため高等部2年生の秋に安中駅から信越線に乗って名古屋経由で関西旅行に出かけましたが、当時の国鉄の汽車の1両を借り切ることもできず、一般乗客と一緒に旅をいたしました。また先輩、後輩の垣根も低く感じられました。先生と生徒が親しく、学生歌一番にあるように「友はわが師、師はわが友」という関係でした。私が学んでいたときから、新島学園は実質的には中高一貫校であり、中学生と高校生が一体となつて一生懸命勉強に、クラブ活動に自由に伸び伸びと取り組んでおりました。

今、新島学園は、教職員やPTA、同窓会等関係者のみなさんが65年間に築かれた良き伝統と校風を尊重するとともに、時代と社会の大きく激しい変化を踏まえ、課題を克服して未来を切り開いていくため、努力を続けています。私も「謙虚と誠実」を心懸け、同窓会のみなさんを初めとする関係者のみなさんの意見と要望に真剣に耳を傾け、学園で学んでいたときの先生や先輩から教えられたことを大切に、なつかしい学園生活の思い出を胸に秘めて、さらに前へ進んでいきたいと考えています。みなさんのご理解とご支援を心よりお願いいたします。

# 各地区根笹会

## 東京

### 新しいビジョンを掲げた学園と我々

東京根笹会会長 松本政之  
東京根笹会総会、懇親会は、昨年同様、有楽町外国人記者クラブで、150名を超す出席者で開催されました。故郷群馬から、今春就任された、大平理事長、狩野副学長、始め学園経営陣、松本同窓会長、来賓各位の参加を頂き、例年どおり盛大に行うことが出来ました。各期の幹事の尽力、開催の準備、実行に携わったスタッフの貢献により、有意義な会を持つことができました。今年には特に若い人たちの参加が増え、会の雰囲気、話題も変わりつつあります。今後さらに、2世代にわたるメンバーがフランクに交流できる、さら



のオープンで有益な場にして行きたいと思っています。大平理事長のご挨拶の中で、新しいビジョンの紹介があり、キリスト教精神に基づく「たくましい精神を持つ新しい人材」を育成する。というミッションを掲げられました。これはまさに、時代の、社会の、求める人材です。我々卒業生も強い期待と協力して行きましよう。今、日本社会は、長期の経済不振、政治の停滞、社会政策の混乱、モラルの低下、加えて天変地異大災害と閉塞感に満ちています。若者が希望を持って生きられる社会に変えてゆく必要があります。学校も我々卒業生も、社会の要請にしっかりと応えて行きましよう。新島襄先生の葬儀の時に徳富蘇峰が弔辞の中で「彼らは世より取らんとす、我は世に与えんとす」と先生の人生を総括しました。新島学園で教育を受けたその誇りと責任に於いて、より良い社会にしていく為に、それぞれの持ち場で出来ることをやって行きましよう。来年の総会は7月7日（金）です。

## 前橋

### 前橋根笹会会長 熊木義隆

今年度、前橋根笹会は、8月23日、9月13日に幹事会を開催し総会を左記の通り実施することが決定いたしました。前橋在住の卒業生だけでなく他地区の方の参加も可能ですので、皆様の参加を心よりお待ちしております。

日時 2011年10月22日（土）  
19時00分より  
場所 前橋テルサ 9階ツツジの間 027-2331-3211  
会費 5,000円

## 高崎

### 高崎根笹会会長 小見勝栄

同窓会本部の要請により、今年の3月13日マリエール高崎にて「高崎根笹会」発足総会が開催されました。会には東京、伊勢崎根笹会の皆さん、同窓会長、法人の湯浅理事長、市川校長など大勢の皆様にご臨席をいただき、総勢260名余の参加者があり、全員で懐かしい校歌を合唱しました。1期の諸先輩から52期の卒業生、中には親子の卒業生と世代を越えて、まさに新島ファミリーの楽しい懇談の集いとなりました。高崎には約3,500名の卒業生がいます。大世帯だけにまだ高崎根笹会の組織運営が十分に機能してない面もありますが、今後の課題として会員の皆さんのご協力をお願い申し上げます。今回第2回高崎根笹会の総会を左記の通り実施いたします。高崎在住の卒業生だけでなく他地区の方の参加も可能ですので、各期の幹事の方にお申し込みください。



## 伊勢崎

### 伊勢崎佐波根笹会会長 天田清之助

伊勢崎佐波根笹会は6月4日（土）伊勢崎プリオパレス会場にて開催されました。今回の来賓として松本同窓会長、市川校長に出席していただきました。また、久しぶりに桐生地区から大川昌平氏（15期）、大沢正俊氏（15期）、伊藤伸一氏（17期）の3名の出席もあり、賑やかに開催できました。その場にて、桐生地区の根笹会を再び立ち上

日時 2011年10月7日（金）  
18時30分より  
場所 高崎ビューホテル  
会費 5,000円

## 富岡から

### 富岡から根笹会会長 寺田侑弘

富岡から根笹会の第1回の集まりが2010年11月13日に開催されました。永井先輩（3期生）のご指導の下、約70名（3期から53期までのOB・OG）



**有限会社 小森谷商店**  
代表取締役 小森谷 剛 (37期)  
〒370-0873  
高崎市下豊岡町575  
☎ 027-323-2530  
FAX 027-323-8108

**佐藤産業 株式会社**  
代表取締役 佐藤 克佳 (33期)  
〒370-2316  
富岡市富岡1769  
☎ 0274-62-3351 (代)  
FAX 0274-62-3307

**国際警備株式会社**  
〒370-0046  
高崎市江木町1525番地  
☎ 027-327-5500 (代)  
FAX 027-327-7710

**日本リスクコンサルティング 有限会社**  
代表取締役 関口 俊介 (26期)  
〒370-0816  
高崎市常盤町133番地  
☎ 027-310-1703  
FAX 027-310-1704

# 同窓生 専門家紹介

## 牧師さん

◆荒谷 出 (23期生)  
共愛学園中高、幼稚園宗教主任、米国会同メソジスト教会牧師

「新島学園の思い出」  
私たちは男女共学の第一期生として6年間新島で教育を受けた学年です。しかしながら、創立当時の新島の空気が、まだまだ色濃く漂っている時期であつたのだらうと思います。教鞭をとっておられた先生方のほとんどが、学園創立当初からの方々でした。非常に自由な校風を肌で感じながら、のびのびと学園生活を過ごしました。「キリストの香」あふれる学園であつたと思います。言葉にできないのですが、確かに、その「香り」に育てられ、現在の職場でも、その同じ「香り」をかもし出す一人となれることをめざしています。

◆入 治彦 (23期生)  
日本基督教団京都教会「牧会者として新島学園に望むこと」

新島学園中2の時、中学部長だった先生が、私の手相を見て「君は将来絵描きか牧師になる。」と冗談を言われました。当時私は、カーデザイナーになりました。席し、聖歌隊で宗教音楽に触れ

の参加を得て、50年の歴史を踏まえ、盛大にまた楽しい集まりになりました。(参加メンバーの話が途中で、料理がずいぶん余ったとか...)このように当会は出来るだけフランクな集まりにする為、目的も会員相互の親睦に絞っております。又、参加メンバーも、富岡甘菜地区の卒業生に限らず、新島学園に学んだOB・OGであればどなたでも、集まりに参加OKです。例会も、基本的には毎年11月第2土曜日と決定しており、今年度も第2回富岡かんら根笹会を11月12日(土)ホテルアミューズ富岡にて、開催致します。

ラフな集まりにと考えておりますので是非、お誘いあわせの上、多くの方の参加をお待ちしております。  
連絡先 事務局山口慎一郎 (38期生)、携帯090-18746-11568、e-mail:stguchi@amamichi.co.jp

ことを学び得たのは、牧師としての財産です。

◆古澤啓太 (41期生)  
日本基督教団神戸東部教会「牧会者として新島学園に望むこと」

ているうちに、牧師の道に導かれたように思います。キリスト教に反発していた人が、卒業後洗礼を受けたことを聞いて驚くこともありま。これからも、教育の根幹に礼拝を置いて、良い種まきをしていただきたいと思います。

◆川上 盾 (28期生)  
東神戸協会「新島学園で学んだことで牧会に生かされていること」

同級生から「川上が牧師できるんなら、誰だって牧師になれる」と言われるくらい、先生方を悩ませた生徒でした。そんな悪ガキを、新島は切り捨てずに面倒を見続けてくれました。牧会に生かされていること、それは「どんなに人も切り捨てず付き合ひ続けること」です。3年間勉学を忘れて弾き続けたギターも、今、役立っています。

◆新井 純 (35期生)  
日本キリスト教団十日町教会

私は岩井校長時代最後の入学者です。一人一人の人格を重んじるという建学の精神が大切にされ、ルール違反にはノーを突きつけつつも、多感な成長過程をたどっている生徒を受け止める懐の深さがありました。六年間の寮生活、下宿生活も合わせ、自立することと個を大切にす

◆栗原宏介 (48期生)  
日本基督教団奈良教会

新島学園らしき、それは学生歌に謳われている「友はわが師、師はわが友」という在り方であり、教育の五原則に表わされている精神であると思います。この「らしさ」こそが、牧師として今を生きている私の基となっています。これからも学園に集

# [2010年度同窓会決算報告]

## 一般会計

### 収支決算書 (2010.4.1~2011.3.31)

収入		支出	
科目	決算額	科目	決算額
1 前年度繰越金	1,920,105	1 印刷費	322,245
2 同窓会費収入	2,100,000	2 会議費	376,322
3 名簿代収入	61,200	3 事務費	194,016
4 その他	43,681	4 備品費	45,805
5 コンサート	493,644	5 遠征費補助金支出	285,000
収入小計	2,204,881	6 同窓会等助成金支出	160,000
合計	4,618,630	7 通信費	793,056
		8 根笹編集関連費	58,410
		9 同窓会主催事業費	165,750
		その他	54,395
		支出小計	2,454,999
		次期繰越金	2,163,631
		支出合計	4,618,630

## 一般会計 財産目録

科目	決算額
現金	43,014
普通預金 群馬銀行/安中支店	2,120,617
固定性定期預金 群馬銀行/安中支店	12,000,000
正味財産	14,163,631

## 根笹基金

### 収支決算書 (2010.4.1~2011.3.31)

収入		支出	
科目	決算額	科目	決算額
1 前年度繰越金	15,356,362	1 褒賞費	70,000
2 寄附金収入	106,000	2 賞状代	7,560
3 利息収入	12,089	3 雑費	315
収入小計	118,089	支出小計	77,875
合計	15,474,451	次期繰越収支差額	15,396,576
		支出合計	15,474,451

## 根笹基金 財産目録

科目	決算額
普通預金 群馬銀行/安中支店	396,576
定期預金 群馬銀行/安中支店	15,000,000
正味財産	15,396,576

う一人一人がそれぞれその人格に触れ、互いに尊重する方を。どうか「らしく」在り続けてください。  
◆齋藤 開 (52期生)  
日本基督教団西宮教会「新島学園の思い出」  
片道1時間半かけて通い続けた日々。高校3年間は1日も休みませんでした。どうでもいい雑談だけは今も覚えている宗教の先生の授業。今から考えるとそれは大切な話だったと思います。  
個性豊かな教師達、友達。面白い人、変な人、どうしようも

ない人、悪い人など色々な人が沢山いました。  
◆柏木和宣 (1期生)  
隠退教師、最終牧会教会(倉敷教会)、代務者として(平安教会)「新島学園の思い出」(60年を振り返って)  
太平洋戦争の敗戦を経験した、軍国少年の生き方を叩き込まれた我々は、新しい時代を目指す志を求めて、学園の創設期を共にした。  
それは、青年新島裏が幕末の時代に、いたたまれぬ思いで海外を目指した志と重なるものがあつたように思っている。それ

が神と人に関わる牧師の歩みを支えてきたのであろう。  
◆寺田仁計 (4期生)  
名古屋新生教会牧師「牧会者として新島学園に望むこと」現状を知らないものが、意見を申し上げることは失礼ですが、創立60年を超えた現在、もう一度、創立時におけるキリスト教主義教育の原点に立ち戻っていただきたいと思います。それに基づいて、現代に適用できる方策を講じていただきたいのです。創立時のキリスト教主義教育を受けた者としての最大の願いです。

**ヤマハ板鼻教室**  
田中 美香 (29期、旧姓大橋)  
〒379-0111  
安中市板鼻1-3-9  
☎ 027-382-3462 (自宅)  
FAX 027-382-7040

**株式会社 みなとや**  
田中 栄司 (33期)  
田中 大喜 (63期)  
〒370-3342  
高崎市下室田町1123  
☎ 027-374-0122

**株式会社 湯川工務店**  
代表取締役 湯川 嘉昭 (31期)  
湯川 恵子 (31期)  
〒370-2452  
富岡市一の宮1530  
☎ 0274-62-2015  
FAX 0274-64-3180

**文修堂書店**  
中嶋 修 (18期)  
〒379-0116  
安中市安中2-2-1 (市役所通り)  
☎ 027-382-3020  
FAX 027-382-3015

# 部活・生徒紹介

## 中学サッカー部



平成23年度 安中市総合体育大会(7/10~17)  
 松井田南中学校 2-0  
 安中第一中学校 10-0  
 安中第二中学校 7-0  
 全勝優勝

平成23年度 第46回群馬県総合体育大会(7/29~8/1)  
 一回戦 高崎市立榛名中学校(高崎1位) 1-1 PK5-4  
 準々決勝 前橋市立第七中学校(前橋3位) 2-0  
 準決勝 前橋市立第六中学校(前橋2位) 4-1  
 関東サッカー大会出場権獲得!  
 決勝 北群馬郡立吉岡中学校(北群馬1位) 1-0  
 群馬県総合体育大会優勝 昨年度に引き続き連覇達成

平成23年度 第42回関東サッカー大会滋賀県大会(8/7~8/10)  
 一回戦 山梨県甲府私立城南中学校(山梨2位) 2-0  
 準々決勝 埼玉県埼玉栄中学校(埼玉1位) 1-3  
 代表校決定戦 神奈川県川崎市立宮内中学校(神奈川1位) 2-1

関東大会第5位 全国大会出場決定!

平成23年度 第42回全国サッカー大会滋賀県大会  
 一回戦 岐阜県帝京大学可児中学校 3-2  
 二回戦 徳島県徳島市立川内中学校 1-4  
 全国ベスト16

昨年度に引き続き全国大会に出場することができた。選手たちがチーム一丸となって闘った結果であると言える。今年のスローガン「蒼・巧・激」の「the team」は今回のチームにぴったりと当てはまった。相手を翻弄するパスワーク、足下の技術を生かした突破、1対1の攻防の中の激しさ、そして全員で攻撃し、全員で守備をする。高いチームワークであったがゆえ、再び全国の舞台に立てたのではないかと感じている。主将久保田を中心に魂をもつて闘ってくれたと思う。全国大会の最後の得点は、主将久保田ではないことを証明してくれた。来年度はさらにプレッシャーが大きくなるが、新島学園サッカー部らしく今後も闘って行きたいと思う。

(顧問・中村圭介 報告)

## 中学ソフトボール部

全日本中学生男女ソフトボール大会 3位 (初出場)  
 一回戦 花園中(大阪)  
 ○ 7-5  
 二回戦 安富祖中(沖縄)  
 ○ 8-4  
 準決勝 吾川・池川中(高知)  
 ● 3-5



県大会での敗戦から気持ちを切り換え、全日本大会へ優勝を目指して望みました。昨年十二月には突然、恩師である江原先生を亡くし、技術面だけでなく、精神面においても拠り所を失ったチームは、五月に行われた新島学園杯で全敗をしました。しかし、コーチの方々の助けもあり、春季大会や県大会を経て、チームの結束力は徐々に強固なものになっていきました。このように培われてきた気持ちの強さが、今大会中、点を取られてリードされる場面においてチームを救うことができました。点を取られてベンチに戻ってくる選手の顔は落胆の色ではなく「点を取り返してやる」という強い気持ちに満ちていました。今回、諦めずにその強い気持ちを持ち続けることができたことは、選手一人一人にとって、大きな自信につながっていると思います。準決勝では残念ながら敗れてしまいましたが、全国のチームと対戦することができたことは、生徒にとってソフトボールだけでなく、今後の学園生活においても大きな支えになるのではないかと感じています。

(顧問・川合健史 報告)

## 高校ソフトボール部

インターハイ県予選 優勝(三年連続三十七回目)  
 関東ソフトボール選手権 優勝

(四年振り十三回目)  
 全国総合体育大会 準優勝(過去優勝五回・準優勝四回)  
 一回戦 シード  
 二回戦 多度津高(香川)  
 ○ 9-2  
 三回戦 鹿児島工高(鹿児島)  
 ○ 3-1  
 準々決勝 城東高(徳島)  
 ○ 5-1  
 準決勝 天草高(熊本)  
 ○ 6-0  
 決勝 大村工高(長崎)  
 ● 1-8

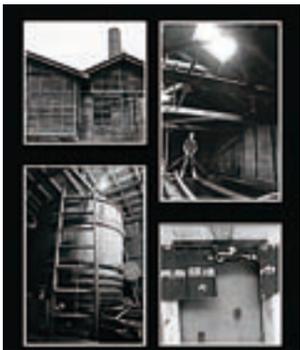


昨年十月のチーム結成から公式戦無敗で望んだインターハイ。六年ぶり六回目の栄冠をめざしましたが、あと一步のところまで力尽きてしまいました。しかしながら一戦一戦ゲームを重ねるごとに逞しくなっていく選手の間や点差が開いても自チームの勝利を信じて最後まで諦めない姿勢は学園ソフトボール部の伝統の重みや学園生としての誇りを感じることができました。昨年十月に急逝された江原先生も教え子の活躍する姿を天国から温かく見守って下さったと思います。今後も教員としてまた一同窓生としてソフトボールや学園生活を通して生徒と様々なことを分かち合えたらと考えております。

(顧問・田中徹浩 報告)

## 写真部

第35回全国高等学校総合文化祭(ふくしま総文) 写真部門全国大会出場  
 8月3日~8月5日福島県会津若松市で写真部門全国大会が実施されました。大会開催中に写真展、表彰式・講評会、撮影会、交流会などが実施され生徒の交流が行われました。  
 全国大会は14年連続の出場となりました。今後も生徒の活躍を期待しています。



## 放送部

第28回全国中学校放送コンテスト全国大会 2名出場  
 7月上旬に行われた県大会において  
 アナウンス部門 優秀賞  
 中学1年 佐藤萌々子  
 朗読部門 優秀賞  
 中学1年 菅野琳子  
 中学1年 菅野琳子の成績をおさめ、群馬県代表として全国大会に出場しました。全国大会では、決勝には進めませんでした。1年生ながら良く健闘したと思います。来年度以降に期待が持てます。

(顧問・小宮山仁 報告)



## 第33回同窓会ゴルフ大会報告

9月11日(日)、安中市ローズベイクントリークラブにおいて残暑厳しい中、ゴルフ大会が開催されました。  
 今年は26期、32期皆様を担当され、過去不参加の期の方達に声を掛け参加人数は141名(女子3名)のビッグな大会となりました。

優勝 神宮克己氏(21期) グロス77 ネット69  
 ベストグロス 清水聖二氏(32期)グロス74(38・36)  
 ラウンド後の表彰式パーティーには大平理事長、市川校長、狩野副学長に参加していただき、学園の近況報告をしていただきました。  
 表彰式では順位結果に一喜一憂し、学園時代にもどりの、期を越えた交流も盛んに行われました。

来年の開催は9月9日(日)同じローズベイクントリークラブで行う予定です。  
 担当は27期、33期の皆さんです。今年参加の皆様はもとより、特に30、40、50期代の皆様の積極的な参加を期待しています。

(斉藤郁也)

**関東新聞販売 株式会社**  
 取締役会長 大橋 稔(5期)  
 専務取締役 大橋 頼模(17期)  
 常務取締役 大橋 龍太(32期)  
 〒379-0116  
 安中市安中4-4-21  
 ☎ 027-382-1811

**榛名電子 株式会社**  
 代表取締役 菊地 政一(10期)  
 〒370-3103  
 高崎市箕郷町下芝666-6  
 ☎ 027-371-5755  
 FAX 027-371-5808

**株式会社 関東培樹園**  
 代表取締役 小坂橋 一正  
 小坂橋 恵美子(26期)  
 〒379-0143  
 安中市築瀬262  
 ☎ 027-385-6906  
 FAX 027-385-1300

**公認会計士・税理士 田島龍一事務所**  
 田島 龍一(19期)  
 田島 裕子(24期)  
 〒379-0016  
 安中市安中2-4-30  
 ☎ 027-380-5539  
 FAX 027-382-6433

**医療法人 協和会 アライクリニック**  
 院長 新井 哲(29期)  
 薬剤師 新井 篤(26期)  
 〒370-2316 富岡市富岡1423番地(富岡駅前通り)  
 ☎ 0274-62-1521(代)  
 FAX 0274-64-3888  
**たく歯科クリニック**  
 院長 新井 卓(39期)  
 〒177-0033 東京都練馬区高野台2-8-5  
 ☎ 03-3997-8461  
 FAX 03-3997-8462



# [進学実績] 進学率97%以上

## ◇国公立大学 (※防衛大学校を含む)

高崎経済大 (経・地域)	6
信州大 (繊維)	1
群馬大 (看護)	1
埼玉大 (教養)	1

筑波大 (情報)	1
前橋工科大 (工)	1
群馬県立女子大 (文)	1
*防衛大学校	1

## ◇私立大学 (合格者178名より抜粋)

同志社大	26
国際基督教大	1
立教大	7
明治大	2
東京理科大	3
東京女子大	2
中央大	8
同志社女子大	13
立命館大	1
芝浦工業大	2
成蹊大	1

慶応義塾大	1
法政大	2
青山学院大	2
津田塾大	1
学習院女子大	1
日本女子大	1
日本大	3
早稲田大	3
上智大	4
大東文化大	4
学習院大	3

## ◇短期大学 関東地区 (抜粋)

新島短大	14
立教女短大	2

上智短大	1
青山学院女子短大	2

## ☆ 指定校推薦大学

※ 新島短大より四大編入の道もあり

### ◆主な指定校推薦枠一覧

#### [四年制大学]

同志社大	34
同志社女子大	19
玉川大	13
日本大	11
東京電機大	7
共立女子大	5
東海大	3
立教大	4
大妻女子大	3
獨協大	2
東洋大	2
東京都市大	2
東京女子大	2
芝浦工業大	2
成蹊大	2
清泉女子大	3
明治学院大学	2
東京歯科大	2

国際基督教大	1
青山学院大	1
東京理科大	1
学習院女子大	1
神戸女学院大	1

#### [短期大学]

新島学園短大	制限無し
青山学院女子短大	7
立教女子学院短大	4
上智短大	1
他合計51校	

#### [海外大学] (各群1~2名)

オーストラリア国立大学 (9大学)
国際大学連合 (英米アイルランド)
ニューヨーク州立大学群 (5大学)
カリフォルニア州立大学群 (7大学)

## 新島学園カミングデーのご案内

**開催日時** 2011年11月27日 (日)  
**受付** 12:30~  
**開催** 13:00~  
**会場** 新島学園中学校・高等学校  
 礼拝堂、フィリアホール他  
**内容** 記念講演、ティーパーティー、  
 学校見学

上記の内容を予定しています。



8月10日(水)フィリアホールで大平理事長・学長と市川校長の「基調講演」及び、大木事務局長と石野副校長を加えて「パネルディスカッション」による本部役員研修会を開催した。大平理事長から「大平ビジョン」の説明と「学園の現状と課題」、市川校長から「中・高の現状と課題」について講演があり「パネルディスカッション」では、生徒・学生の確保、進学・就職、教育実践、私学

経営等々について話し合いが行われた。大平理事長は教育5原則を基盤として、教師の研修制度確立と進路指導体制の充実を重点課題にするとのことであり、大変力強く感じた。意見や質問も出て会場は真剣かつ和やかな雰囲気であった。学園の特色を生かしながら教育力と指導力に一層磨きをかけ、母校が日本一の私学になることを期待したい。

(中島信男)

## 同窓会本部役員研修会開催

昨年12月23日早朝突然の訃報、前日夕方、電話で連絡を取っていた事が脳裏にはつきり浮かび、自分の耳を疑いました。何故?  
 私と江原先生の出会いと同窓会本部役員のご奉仕をさせていただくことになった10数年前です。第一印象は、真面目な好青年でした。それは、月日を重ねても変わることはありません。

せんでした。同窓会事務局の仕事は、黙って何でも引き受け、周りもそれに甘えていたように思います。召天後初めて担ってくださった下のお働きを心から感謝いたします。本当にご苦労様でした。

## 計報 二〇一〇年十二月二十三日心不全にてご逝去 江原先生を想って

二十四期生 田島裕子

**株式会社**  
**ボルテックス セイゲン**  
 代表取締役 武井 宏 (13期)  
 〒379-0133  
 安中市原市432番地  
 ☎ 027-382-3333 (代)  
 FAX 027-382-4792

**萩原建設 株式会社**  
 代表取締役 萩原 永史 (25期)  
 〒379-0104  
 安中市下秋間654番地  
 ☎ 027-381-2850  
 FAX 027-382-6411

**株式会社 有田屋**  
 取締役会長 湯浅 太郎 (4期)  
 代表取締役 湯浅 康毅 (37期)  
 専務取締役 湯浅 由香子 (37期)  
 〒379-0116  
 安中市安中2-4-24  
 ☎ 027-382-2121 (代)  
 FAX 027-382-2516

**株式会社 並木**  
 代表取締役 静 朋人 (32期)  
 静 信江 (32期)  
 〒379-0133  
 安中市原市587-1  
 ☎ 027-382-0730  
 FAX 027-381-1125